

専門基礎分野 形態機能学マトリクス

科目	形態機能学Ⅰ		形態機能学Ⅱ			形態機能学Ⅲ		形態機能学Ⅳ		看護臨床判断の基礎	合計
単元	動く・眠る	食べる・トイレに行く	恒常性維持のための調節機構		話す・きく・みる	生命維持息をする	体液とその循環	お風呂に入る	性を表現する		
年次	1		1			1		1		1	
単位	1		1			1		1		1	5
時間	10	20	8	8	14	10	20	6	9	30	135
時期	前期		前期			後期		後期		後期	
担当	看護教師	看護教師	看護師・看護教師	看護師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	
学習内容	形態機能を学ぶということ (各々の科目と恒常性・物流・神経調節と液性調節との関連) 動く 運動 姿勢・神経から筋への指令と筋の収縮 骨格 骨格筋 関節 日常生活での基本的動き 眠る 睡眠パターン・ノンレム睡眠、レム睡眠、からだのリズム(深部体温の変化・ホルモンの調節)	食べる 食欲 食行動 咀嚼し味わう 飲み込む 消化と吸収 飢餓 トイレに行く 尿意 畜尿 排尿 尿の生成 体液調節機構 便意 便の生成 排便	神経性調節：認識し判断し記憶する 情報を伝える どのように情報を伝えるか	液性調節：ホルモンの作用機序 ホルモンの分泌調節 恒常性維持のためのホルモンの働き ストレスと恒常性維持	神経調節：情報を得る 見る におう 触れる 会話する 話す 聞く 言葉	生命維持 生きているとはどういうことか 内部環境の恒常性 生命維持と生活行動 息をする 息を吸う 息を吐く ガス交換	流通の媒体(血液) 血液の恒常性 物質の運搬 侵入に対する防御 血液凝固 流通路 流通の原動力	お風呂が身体、心理、社会性に与える効果 垢や汚れを取り除く意味 入浴の3大作用 皮膚と付属物、粘膜の構造と機能 お風呂に入るための認知、運動、感覚機能 発達段階における生活習慣や皮膚の特徴 高齢者の皮膚の特徴と発生しやすい皮膚トラブル 侵害受容器ほか	性に関わる体のつくりを学ぶ意味 生物学的性と社会学的性 遺伝、ホルモン、遺伝子組み換え 生殖器の構造と機能 ホルモンの働き 生殖器の発達と老化 基礎体温表分析 生殖を支えるホルモン 性交と授精 赤ちゃん(分化、胎盤、胎児循環)出産	形態機能学の知識を活用し事例のからだの中を表現 事例のからだの中で起きていることを判断するための必要な情報・知識を表現 事例患者と看護師のやり取りから看護師の思考について考える 事例患者に必要な看護を表現 個人・グループ・クラス全体で考える	
演習内容及び理論								お風呂に入るという日常生活の一幕から、清潔の意義を見出し、そこから皮膚のしくみや役割を系統立てて理解していく		形態機能学と看護の方法の知識を活用し事例のからだの中で問いへの対応、状態の判断をする	

病態生理学マトリクス

		病態生理学Ⅰ			病態生理学Ⅱ			病態生理学Ⅲ		病態生理学Ⅳ		
単元		脳神経機能障害	運動機能障害	消化吸収機能・栄養代謝機能障害	内部環境調節機能障害			呼吸機能障害	循環機能障害	身体防御機能障害	感覚機能	性生殖機能
					内分泌系	腎系	泌尿器系					
年次		1		1				2		2		
単位		1		1				1		1		
時間		18	12	10	10	6	4	14	16	12	12	6
時期		後期		後期				前期		前期		
担当		医師	医師	医師	医師	医師	医師	医師	医師・認定看護師	医師・認定看護師	医師	医師
授業内容	症状 病態 生理	運動機能障害 高次脳機能障害 失語、失認・失行 頭蓋内圧亢進	形態異常 関節運動の異常 神経障害 麻痺 出血 深部静脈血栓	吐血 下血 腹部膨満感 便秘 下痢 腹水 黄疸	ホルモン異常 高血糖 低血糖	高血圧 血液の異常 尿毒症	尿の異常 排尿の異常 浮腫	喀血 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ 発熱 喘鳴	動悸・不整脈 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ ショック・失神 四肢の疼痛	貧血 白血球増加・減少 リンパ節腫脹 出血性素因	味覚低下 触覚異常 アレルギー	性交障害 性器出血 月経異常
	検査	CT MRI 脳血管造影 脳波検査 髄液検査	四肢長の測定 ROMの測定 MMT ADL査定 ミエログラフィー	食道・十二指腸・胃・大腸内視鏡 腹部血管造影 消化管造影 腹部CT エコー 内視鏡的逆行性膵胆管造影	ホルモンの検査 血糖・尿糖検査	腎生検 腎盂造影	尿検査 腎機能検査 (PSP、クリアランステストなど) 経尿道的操作および内視鏡検査	血液検査 喀痰検査 胸水検査 画像診断 内視鏡検査 生検 肺機能検査 胸腔穿刺 動脈血ガス分析	動脈血ガス分析 血液検査 心電図 心エコー 心臓カテーテル検査 血管造影 血管動態モニタリング	血液型と輸血 血清中の抗体・自己免疫検査 骨髄穿刺 リンパ節生検	視力・眼底・視野・眼圧検査 聴力検査 味覚検査 触覚機能検査 皮内反応 スクラッチテスト パッチテスト	触診 夜間勃起検査 精液検査 精巣生検 内診 子宮卵管造影 子宮・陰鏡 細胞診 不妊検査
	治療 処置	薬物療法 放射線 手術療法 リハビリテーション	関節穿刺・造影 牽引 ギプス 理学療法 作業療法 関節可動域訓練 筋力増強訓練 手術療法	薬物療法 食事療法 手術療法 放射線療法 経管栄養法、 経皮経肝胆管ドレナージ 高カロリー輸液療法	薬物療法 食事療法	透析療法 腎移植 食事療法 運動療法	薬物療法 膀胱内留置カテーテル	薬物療法、吸入療 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸理学療法 胸腔ドレナージ 手術療法	薬物療法 心臓カテーテル治療 ペースメーカー治療 冠動脈バイパス術 弁置換術 大血管再建術	薬物療法 化学療法 放射線療法 骨髄移植 輸血療法	薬物療法 手術療法	薬物療法 化学療法 放射線療法 ホルモン療法 手術療法
疾患	脳梗塞・脳出血 クモ膜下出血 脳腫瘍 パーキンソン病 てんかん 多発性硬化症 認知症 頭部外傷	腰椎椎間板ヘルニア 脊髄損傷 骨腫瘍 先天性疾患 骨折 脱臼 骨関節の炎症性疾患 変形性股・膝関節症	食道炎・食道癌 胃十二指腸潰瘍 胃癌 潰瘍性大腸炎 クローン病 大腸癌 虫垂炎 ヘルニア・腹膜炎 肝炎・肝硬変・肝臓癌 膵炎 胆石・胆嚢炎	糖尿病 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎疾患	腎炎 ネフローゼ症候群 腎不全 腎癌	尿路・性器の感染症 尿路の通過・機能障害 尿路結石症 前立腺肥大 膀胱癌	肺炎 肺結核 間質性肺炎 気胸 慢性閉塞性肺疾患 肺血栓症 呼吸不全 肺癌	狭心症 心筋梗塞 心不全 血圧異常 不整脈 弁膜症 心筋疾患 肺性心 先天性心疾患 動脈系疾患 静脈系疾患	貧血 白血病 悪性リンパ腫 エイズ 出血性疾患	白内障 緑内障 網膜剥離 網膜症 難聴 メニエル病 中耳炎 副鼻腔炎 舌癌 アトピー性皮膚炎 膠原病	子宮内膜症 子宮癌 乳癌 性感染	

専門分野 基礎看護学マトリクス

科目	看護学概論	看護の方法Ⅰ			看護の方法Ⅱ		看護の方法Ⅲ	看護の方法Ⅳ		看護の方法Ⅴ	看護の方法Ⅵ		看護の方法Ⅶ	看護過程演習	看護管理	看護研究	合計
単元	看護学概論	技術・観察とは	話す・聞く	感染予防	リフレクション	観察・記録・看護過程	食べる・トイレに行く	環境調整	動く・眠る	お風呂に入る	与薬	検査・治療	フィジカルアセスメント	看護過程演習	看護管理	看護研究	
年次	1	1			1		1	1	1	1	1		1	1	3	3	
単位	1	1			1		1	1		1	1		1	1	1	1	11
時間	30	4	14	12	30		30	10	20	30	20	10	15	30	15	30	300
時期	前期	前期	前期	前期	前期		前期	前期	前期	後期	後期	後期	後期	後期	後期	前期	
担当	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師・認定看護師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護教師	看護師	看護教師	
学習内容	看護とは ・看護の目的 ・看護の対象 ・看護の役割・機能 ・看護の歴史 ・主要な看護理論家の看護概念の理解	看護技術とは ・看護技術の特徴 ・看護技術の基本原則 ・看護技術の構成 ・観察とは ・看護における観察の意義視点	コミュニケーションとは ・コミュニケーションの構成要素とプロセス ・関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・効果的なコミュニケーション ・看護における教育 ・学習支援 ・個別・集団指導の特徴	感染予防とは ・感染予防の役割 ・清潔のレベル ・標準予防対策と感染経路別対策について ・標準予防対策の実際 ・器具の特徴と洗浄 ・無菌操作の実際	リフレクションと看護 ・自己への気づき ・批判的分析 ・批判的に記述 ・批判的思考でワーク	看護における観察 ・バイタルサインとは ・呼吸・体温を観察する目的・測定方法と根拠 記録 ・記録・報告の意義と方法 看護過程 ・問題解決型アプローチと看護過程 ・看護過程の5つの構成要素	人間にとっての食の意味・食への援助 ・様々な食事の方法 ・嚥下のメカニズム ・食事の姿勢 ・食事介助 排泄への援助 ・様々な排泄の方法 ・排泄援助と配慮 ・便器を使用した排泄（和式・洋式便器 尿器）	生活環境とは 看護における生活環境 ・病床の作り方 ・臥床患者のリネン交換 ・ベッド周囲の環境整備 ・事故防止の技術	人間にとっての活動、休息 活動、休息への援助 ・ボディメカニクス ・体位変換の技術 ・移動、移送の援助 ・睡眠、安楽への援助、ポジショニング ・褥瘡予防	清潔・衣生活の意義と援助の方法 ・清潔とは ・快適な衣生活とは ・入浴の3大作用と効果 ・病衣の条件 ・整容 ・スキントラブルとそのケア ・寝衣交換 ・輸液ラインが入っている場合の寝衣交換 ・結髪洗髪 ・全身清拭 ・足浴とフットケア ・口腔ケア ・陰部の保清	薬物療法における看護とは ・薬物療法に必要な基礎的知識 ・経口的与薬法 ・直腸内与薬 ・塗布、塗擦 ・点眼、点耳 ・点鼻 ・注射法 ・簡易血糖測定法	検査時の看護とは ・採血に必要な基礎的知識 ・静脈血採血の実際	フィジカルアセスメントとは ・脈拍測定 ・血圧測定 ・循環の査定 ・動きの査定 ・腹部の査定	事例展開 ・アセスメント情報収集、情報分析（常在条件・病情的状態・基本的欲求・関連図） ・看護問題の明確化 ・計画立案 ・実施 ・評価	看護管理とは ・看護管理部門の役割 ・マネジメント ・看護を取り巻く諸制度	看護研究とは ・看護研究の種類と研究のプロセス ・意味・方法 ・倫理的配慮 ・クリティカルシンキング ・リサーチエッセンス ・看護研究計画書 ・看護研究の実施を発表	
	ニードの理論 マズローの欲求段階説 適応論		プロセスレコード アサーション	標準予防策に基づく手洗い 必要な防護用具の選択・着脱 器具の取り扱い 感染性廃棄物の取り扱い 無菌操作	批判的分析	バイタルサイン測定の意義 体温調節の援助 呼吸調節の援助	食事介助 経管栄養法による流動食の注入 経鼻胃チューブの挿入 排泄介助 導尿 浣腸	快適な療養環境の整備 臥床患者のリネン交換	ストレッチャー移送 車椅子での移送 歩行・移動介助 松葉杖・歩行器の介助 移乗介助 体位変換・保持 ポジショニング 褥瘡予防のケア ボディメカニクスモーションメントの応用	湯の取り扱い 足浴・手浴 整容 陰部の保清 清拭 洗髪 口腔ケア 寝衣交換 事例患者への全身清拭と寝衣交換の実践	坐薬の投与 経口薬の投与 経皮・外用薬の投与 6Rの確認	静脈血採血 検査の介助	血圧測定 脈拍測定 心音の聴取 ROM MMT	ヘンダーソン・ニード論 シナリオワーク	看護マネージメント	倫理要綱（ヘルシンキ宣言・ニュンベルグ綱領など） 科学的根拠に基づく実践 PICT FINER クリティーク	

実習科目マトリクス

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	1	前期	コミュニケーション
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	1	前期	アセスメント・クリティカルな思考
基礎看護学実習Ⅲ	2	90	1	後期	リフレクション
合計	5	225			

専門分野 地域・在宅看護論マトリクス

科目	地域・在宅看護論概論	地域・在宅看護論演習		地域・在宅看護の方法Ⅰ		地域・在宅看護の方法Ⅱ	地域・在宅看護の方法Ⅲ	合計
単元	地域・在宅看護概論	地域活動	実習と連携	家族看護	専門職種連携教育	地域・在宅看護技術	地域・在宅看護活動・支援	
年次	1	1		2		2	3	
単位	1	2		1		1	1	6
時間	15	45		20	10	30	30	150
時期	前期	後期		前期	前期	後期	後期	
担当	看護教師 静岡市地域包括支援推進課	看護教師		家族支援専門看護師 看護教師	看護教師	訪問看護師 看護教師	訪問看護認定看護師 看護教師	
学習内容	1. 地域・在宅看護の意義と必要性 ・地域包括ケアシステム ・自助・公助・互助・互助 2. 地域・在宅看護の対象・場の理解 ・病院（外来・入院）診療所 ・居宅（自宅・施設） ・療養通所型事業所、介護施設など 3. 暮らしと地域・在宅看護 1）暮らしと生活 2）地域・在宅での療養の選択 3）地域・在宅ケアの在宅看護 4. 地域・在宅看護の機能と特質 1）担い手と看護を提供する場 2）地域で暮らしつづけることを支援するマネジメント ・倫理と基本理念、権利保障 ・自己意思決定支援（ACP） ・ケアマネジメント 3）在宅看護の目的と機能 ・健康の予防・維持・増進 ・介護予防 ・インフォーマルネットワーク	1. 地域にある健康時事・増進や異常の早期発見に向けた取り組みの理解と場の把握 ・地域連携・協力 ・地域創生 ・地域活動 ・地域で暮らす人々 ・地域の特徴	<地域の暮らしのサポートや実際> 1. 地域・在宅看護論実習における実習場所と対象・制度の理解 2. 地域・在宅看護実習・演習や他科目との関連などの振り返りと情報共有 <医療施設を知る> 1. 地域の施設の一つである「病院」での暮らしを知る	1. 地域・在宅看護の対象の理解 1）地域・在宅の対象 2）家族関係論・役割・影響・変化の理解 2. 様々な対象と家族について理解する 1）子供と家族 2）女性と家族、男性と家族 3）成人と家族 4）高齢者と家族 5）療養者と家族 6）障がい児・者と家族 3. 在宅看護における人間関係の基本 1）人間関係づくり 2）家族へのアプローチ	専門職種（多職種）連携について ・他職種の学生との共同学習 専門職種連携教育 <他職種の学生との共同学習> ・専門職種間でのコミュニケーション能力 ・対象者志向の倫理観 ・専門職種間で対象の共同目標を共有の重要性 ・対象者の目標達成、ケアの向上に向けての ・多職種連携・協働に向けての展望を共に語る	1. 訪問看護における援助関係の基本 2. 生活援助の方法と技術 ・ヘルスアセスメント ・病態・症状アセスメント ・家族・生活のアセスメント 3. 医療管理を必要とする人への看護 1）在宅医療と社会保障 2）在宅酸素療法 3）在宅人工呼吸療法 4）膀胱留置カテーテルの管理 5）在宅経管栄養法 6）在宅中心静脈栄養法 4. 地域・在宅における終末期看護の特徴 5. 暮らしと療養を支える看護制度（医療保険と介護保険）	1. 療養者と家族が抱える問題や目標の明確化と支援 2. 地域・在宅看護における社会保障制度やサポートシステムの活用 3. 療養者と家族がよりよく生きるための多職種連携、看看連携と協働	
演習内容及び理論	<理論> システム理論 ・地域包括ケアシステム ・ACP ・ハイレスクアプローチ ・ポピュレーションアプローチ	地域活動の実際 地域（文化・人などの）多様性		<理論> ジェノグラム、エコマップ、理論：アセスメントモデル（フリードマン、カルガリー、エンパワメントなど） ライフステージと家族	相互理解・インフォーマルな資源とフォーマルな資源・専門職種連携・コミュニケーション技術	<制度> ・介護保険・医療保健 <理論> ACP・グリーンケア・家族ケア・リスクマネジメント <演習> 医療機器の取り扱い	<理論> ・ACP、ジェノグラム、アセスメントモデル・ケアマネジメント <制度> ・介護保険、医療保健、障害者総合支援法、難病法、支援制度	

実習科目マトリクス

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	90	1	後期	地域の暮らしのサポートや制度・対象を知る
地域・在宅看護論実習Ⅱ	3	90	1	前期	地域・在宅看護の役割（看護の専門性）、多職種連携、看看連携
合計	5	180			

専門分野 精神看護学マトリクス

1. 精神保健福祉の変遷を歴史的背景から学び、障害の特性をふまえて対象理解を深める。
- 科目目標 2. 精神症状が日常生活に及ぼす影響をとらえ、こころの病をもちながら生きていく対象への支援の実際を学ぶ。
3. こころの病を抱えて生きる人の人権を守り、地域生活を支えていくための援助方法を理解する。

科目	精神看護学概論		精神看護の方法Ⅰ こころの健康障害の診断と治療	精神看護の方法Ⅱ こころの健康障害をもつ人の 地域生活を支える援助	精神看護の方法Ⅲ こころの健康障害をもつ人への看護
年次	1年後期		2 年前期	2 年前期	2 年後期
単位時間	1単位（30時間）		1単位（15時間）	1単位（30時間）	1単位（15時間）
	10時間	20時間			
担当	看護教師	公認心理士	精神科医師	看護教師	看護教師
学習目標	1 現代社会におけるこころの健康の現状を知り、精神看護の必要性を学ぶ 2 こころの健康・精神看護における看護師の役割を理解する 3 精神保健について理解し様々な場における精神保健活動について学ぶ 4 自己の関わりを振り返る方法	1 心の働きについてどのような研究がなされてきたかを学び、実践に活かせるような知識を習得する 2 自分の心の動きについて注目し、演習でセルフケアの方法を学ぶ 3 患者とその家族とのスムーズでサポートタイプなコミュニケーションを学び、対人スキルと心のケアについての理解を深める	1 基本的精神機能の役割について学ぶ 2 主要な精神疾患の症状・経過および診断について学ぶ 3 精神疾患および精神症状における治療法について学ぶ 4 地域精神医療への転換に向けた看護の在り方を考える	1 病院中心の精神科医療から地域におけるケアへと向かう日本の地域精神保健の動きを実践事例を通して知る。 2 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるよう、援助者が心得ておくべき原則を学ぶ。 3 地域生活におけるこころの危機を支える社会制度とその基盤となる考え方を学ぶ。 4 学校・職場など、社会生活の場における精神保健と精神看護を学ぶ。	1 精神科における入院治療の意味を理解し、看護の役割について考える。 2 心の痛みがどのように身体で表現されるかを知り、精神科に多い身体合併症とその看護、精神科で行われるケアの実際について理解する。 3 精神障害者が安定した地域生活を送ることができるためにどのような看護が行われているかを理解する。
学習内容	・健康な心の理解 ・現代社会の変化とこころの健康 ・生活の場と精神保健 ・静岡市の精神保健の現状 ・ケアの人間関係 関係性の理解	・心の仕組みとパーソナリティ ・自己理解のための心理検査Ⅰ（質問紙法） ・ストレスのメカニズムとストレスマネジメント ・精神疾患と社会復帰支援 ・コミュニケーションとアンガーマネジメント ・様々な精神療法と実際 認知行動療法 ・心の仕組みと発達 自己理解のための心理検査Ⅱ（投影法）：バウムテスト ・カウンセリングのエッセンスⅠ自己理解のための心理検査Ⅲ（投影法）雨の中の私	・精神科疾患のあらわれ方 ・各精神機能の役割 ・脳と神経の関係 ・精神障害の理解 ・精神疾患の診断基準、精神症状 ・統合失調症 ・感情障害（躁うつ病） ・神経症（拒食症も含む） ・器質的精神病 ・精神作用物質の異常（依存症等） ・診断に伴う検査 ・治療（精神療法、薬物療法等）合併症 ・精神の発達(心が大人になるプロセス)	・地域精神保健の基礎と支援の枠組み ・学校や職場でのメンタルヘルス支援 ・身体疾患を持つ患者の精神保健 ・精神科看護と法律・制度 ・回復を支援するためのアプローチ ・心のケアと看護の役割 ・リエゾン精神看護とその役割 ・精神障害を持つ人々の地域生活支援 ・回復志向の精神看護 ・看護師のメンタルヘルスと感情労働	・精神科病棟の機能と治療環境の特徴、看護師の役割 ・統合失調症患者の看護 ・うつ病患者の看護 ・双極性障害患者の看護 ・身体をケアする 精神科の治療や合併症に伴う身体ケア ・精神科医療の現状と課題を考える ・災害とこころのケア 災害時のメンタルヘルスとDPATの活動

実習科目マトリクス 精神看護学

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
精神看護学実習	3	90	3	前期	こころを病む人とその支援者とのかかわりの中から必要な支援について考える

専門分野 成人看護学マトリクス

科目	成人看護学概論	成人看護の方法Ⅰ	成人看護の方法Ⅱ	成人看護の方法Ⅲ	成人看護の方法Ⅳ	成人看護の方法Ⅴ
単元		慢性期看護	周手術期看護	救急看護	がん看護・終末期看護	成人臨床技術演習
年次	1	2	2	2	2	2
単位	1	1	1	1	1	1
時間	15	30	30	30	30	30
時期	後期	前期	前期	前期	後期	前後期
担当	看護教師	看護教師・認定看護師	看護教師・認定看護師	看護師・認定看護師・医師	看護教師・認定看護師	看護教師
学習内容	1)成人の生活と健康 2)成人の健康レベルや状態に対応した看護 3)人への基本アプローチの基本 4)成人期を生きる身近な人の健康を支援するための提案	1)慢性期看護総論 2)慢性にある人の病の軌跡（理論） 3)糖尿病と透析療法患者の看護 血液透析療法の看護 4)慢性心不全患者の看護 5)難病患者の看護 ALSなどの難病患者に対する看護 6)意識障害がある患者の看護（遷延性意識障害） コミュニケーションが困難な患者への援助・看護 7)回復リハビリ期にある対象の看護 8)慢性疾患の対象に対する保健指導・退院指導 <シミュレーション事例> 血液透析療法、脳出血後の後遺症（リハビリテーションなど）、糖尿病など	1)急性期・周術期総論 2)術前看護 3)術前看護の実際 4)術中看護 5)術後看護 6)術後看護の実際 7)創傷管理の実際 <シミュレーション事例> 脳動脈瘤クリッピング術、腹腔鏡下胆のう摘出術、腹腔鏡下直腸低位前方切除術、肺葉切除術 など	1)救急看護総論 2)救急医療の特徴と実際 3)急変時の看護 4)救急看護の実際・実践 5)集中治療看護 6)心肺停止 <シミュレーション事例> 急性腹症、急性心筋梗塞など	1)がん看護総論 2)がん化学療法の看護 3)がん放射線療法の看護 4)終末期看護総論 5)緩和ケア 6)臨死期の看護と看取り <シミュレーション事例> 乳がん、すい臓がん、など	簡易血糖測定 酸素吸入法 気道内加湿 口腔内・鼻腔内吸引 気管内吸引 体位ドレナージ 創傷処置 ドレーンの管理 ストーマ管理 心電図 皮下注射 筋肉内注射 静脈路確保 点滴静脈内注射 点滴静脈内注射の管理 脳神経・感覚機能の観察法とアセスメント 頸部・乳房の観察法とアセスメント
理論及び演習	← 病の軌跡・軌跡の局面 →					
	成人期の発達課題、成人期の健康問題、ヘルスプロモーション、大人の学習、症状マネジメント、行動変容を促進するアプローチ、意思決定支援、	意思決定支援（共有意思決定） 退院支援・退院指導 セルフケア、自己管理セルフマネジメント教育、健康学習支援 アドヒアランス/ゴンゴダス アダゴンラシー 行動変容ステージ ICF、生活の再構築の支援 障害の受容、病みの軌跡 チームアプローチ 医療・福祉サービス制度 ヘルスプロモーション <演習項目> 保健・退院指導	意思決定支援（共有意思決定） クリティカルケア 危機の問題解決モデル 障害の受容、ボディイメージの変容への援助 安全管理（ドレーン管理、環境整備など） <演習項目> 術後指導 離床の援助	意思決定支援 ストレスコーピング理論、危機理論 意思決定に関する理論 家族支援、代理意思決定支援 多職種連携 臨床推論・判断 <演習項目> BLS	インフォームドコンセント、AYA世代のがん、がんサバイバーシップ 延命治療、尊厳死、安楽死、QOL 緩和ケア、全人的苦痛、臨死期の理解、看取り、死亡時の看護、死後の処置 家族の悲嘆へのケア、グリーフケア アドバンスケアプランニング 多職種連携、チームアプローチ <演習項目> 苦痛の緩和ケア	

実習科目 マトリックス

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
成人看護学実習	3	90	3	前期・後期	周手術期にある対象への看護を考え、急性の経過に合わせた看護を実践する

専門分野 老年看護学マトリクス

科目	老年看護学概論	老年看護の方法Ⅰ	老年看護の方法Ⅱ	老年看護の方法Ⅲ
単元	老年看護の基盤となる概念の理解	高齢者の健康生活への援助	人生の最終段階にある高齢者の看護	治療を選択し生活する高齢者の看護
年次	1	2	2	2
単位	1	1	1	1
時間	15	30	15	30
時期	後期	前期	後期	後期
担当	看護教師	看護教員・認定看護師	看護教師・認定看護師	看護教師・外部講師
学習内容	1. 老年期にある対象の理解 1) ライフサイクルとしての老年期の理解 2) 加齢による身体的・心理的・社会的機能の特徴（衰退と成熟）が日常生活に及ぼす影響 3) 高齢者とのコミュニケーション 2. 高齢者が地域で暮らしていくための支援の理解 1) 高齢者の生活と家族 2) 高齢者の暮らしの支援 3. 老年看護の目標・役割の理解 1) 高齢者の生活の質を考えた看護 2) 高齢者の在宅での生活を支える看護 3) 高齢者の保健医療福祉施設における看護 4) 老年看護における倫理的課題	1. 高齢者のヘルスアセスメントと健康生活を維持するための援助 1) 日常生活力アセスメント 2) 活動性を高める援助（転倒予防・休息への援助・アクティビティケア） 3) 食生活・排泄を整える援助（蛋白質・エネルギー低栄養状態、サルコペニア、フレイル、脱水リスクのアセスメントと予防、誤嚥、失禁・便秘の要因と予防） 4) 探究した地域で暮らす高齢者の健康生活への援助 2. 認知症とともに生きる高齢者の看護 1) 認知症の症状の理解 認知機能評価 2) 認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション 3) 認知症をもつ高齢者の生活支援 4) 地域にある認知症をもつ高齢者と家族への社会資源とその活用	1. 高齢者のエンドオブライフケア 1) 高齢者の死生観 2) 死の迎え方の意向・看取りの意向を尊重した看護・ACP ・リビングウィル 3) 死後のケアとその意味 4) 遺族を支える援助 5) 人生の最終段階にある高齢者・家族への看護実践の提案	1. 治療を必要とする高齢者の看護 1) 薬物療法を受けながら生活していく高齢者の看護 ＊老化が薬物動態に及ぼす影響の理解 老化をふまえた確実な服薬への援助 2) 老化による生活への影響から手術療法を選択した高齢者の看護（事例展開） ＊老化が術後の回復過程に及ぼす影響の理解、術後合併症の予測と予防 3) 転倒により生活に変化を来した高齢者の看護（事例展開）
	高齢者とのコミュニケーション ＊地域で暮らす高齢者と関わる 地域・在宅看護論実習の体験活用 専門職連携教育（IPE） ＊介護福祉士、社会福祉士を目指す学生と関わり互いの役割紹介 サクセスフルエイジング、コンフォート理論、ストレングスモデル、エンパワメント理論	嚥下訓練・とろみ製剤の活用・食事指導 口腔ケア（義歯の着脱・手入れ） 排泄援助（オムツ）・摘便 整容 歩行・移動介助（杖歩行） 安全な療養環境の調整 高齢者疑似体験 ヘルスアセスメント 認知症者のパーソン・センタード・ケア ストレングスモデル、ＩＣＦモデル	ポジショニング ・安楽な体位の調整 ・安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア ・褥瘡予防ケア 危機理論（死の受容過程）	高齢者のフィジカルアセスメント 膀胱留置カテーテルの管理 体位変換・保持、安楽な体位の調整 車椅子での移送・移乗の介助 自動・他動運動の援助 精神的安寧を保つためのケア

実習科目 マトリックス 老年看護学実習

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
老年看護学実習Ⅰ	2	90	2	後期	高齢者の生活援助・自己の高齢者観を考える
老年看護学実習Ⅱ	3	90	3	通年	チーム看護・チーム医療の経験から老年看護の役割を考える

専門分野 小児看護学マトリクス

科目	小児看護学概論	小児看護の方法Ⅰ	小児看護の方法Ⅱ		小児看護の方法Ⅲ	合計
年次	2	2	2		2	
単位	1	1	1		1	4
時間	15	30	20	10	30	105
時期	前期	前期	後期	後期	後期	
担当	看護教師	看護教師	小児科医師	看護教師	看護教師・外部講師	
学習内容	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計、こどもと医療 3. 小児をめぐる法律と政策 小児保健・福祉行政の推移 母子保健 4. 小児看護における倫理 小児看護の課題 5. 小児と成長・発達（特徴） 6. 小児の成長・発達に影響する因子 7. 小児と社会 小児をめぐる問題（児童虐待）	1. こどもについて こどもと絵本、小児の成長・発達の評価 2. 新生児期の特徴と看護 3. 乳児の特徴と看護 4. 小児の栄養と離乳食 5. 幼児の特徴と看護 6. 幼児の生活援助 7. 離乳食を作る 8. 乳幼児の予測される事故 9. 子育て支援～静岡市の取り組み～ 10. 学童の特徴と看護 11. 遊びの工夫 12. 思春期の特徴と看護 13. 乳幼児の生活援助体験 おんぶ、抱っこ、バギー体験、更衣、おむつ交換 14. 小児の理解を深める 新聞スクラップ発表	1. 小児によくみられる健康障害（小児に特有な疾患の経過や病態の特徴を学ぶ） ・ダウン症候群、プラダーウィリー症候群 ・1型糖尿病、成長ホルモン、低身長 ・ウイルス感染症、細菌感染症、予防接種 ・インフルエンザ、ノロウイルス、ロタウイルス、RSウイルス ・川崎病、気管支喘息、クループ、食物アレルギー ・骨折、アトピー性皮膚炎、斜視、中耳炎 ・血友病、紫斑病、神経芽腫、白血病 ・てんかん、けいれん、脳性麻痺、二分脊椎 2. 手術を受ける必要のある健康障害（発症の時期・主要症状・手術療法の必要性・手術に伴う危険・周手術期における治療の実際を学ぶ） ・心室中隔欠損症、ファロー四徴症、ヒルシュスプルング病 鎖肛、食道閉鎖、幽門狭窄症、胆道閉鎖 3. 治療が困難な健康障害 ・筋ジストロフィー 4. 新生児の疾患（低出生体重児に起こりやすい疾患と問題） 5. 健康障害を抱えた子どもと家族の理解 6. 在宅で療養する小児とその家族の理解 7. 事例展開と看護の実際の理解		1. 健康障がい子どもと家族に及ぼす影響 2. 子どもにとっての病院環境と看護 3. 健康レベルに応じた小児看護の実際 ①急性期にある子どもと家族の看護 ②慢性期にある子どもと家族の看護 ③手術を受ける子どもと家族の看護 ④終末期にある子どもと家族の看護 ⑤感染症を持つ子どもと家族の看護 ⑥在宅療養中の子どもと家族の看護 4. ハイリスク新生児と家族の看護 5. 小児の事故 救急救命処置時の看護 6. 小児の虐待と看護 7. こころに障害のある子どもの看護 8. プレパレーションの実際 9. 小児看護に必要な看護技術 バイタルサイン測定・身体計測 輸液療法の実践・身体抑制の実際 10. 健康障がいのある小児と家族の地域における看護	
演習内容および理論		エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 ボウルビイの愛着理論 マラーの分離一個体化理論			家族システム理論 家族ストレス対処理論 家族発達理論 プレパレーション 【看護師教育の技術項目】 50:バイタルサインの測定 51:身体計測	

実習科目 マトリクス

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
小児看護学実習	3	90	3	前期・後期	子どもの健やかな成長発達促進に向け、児とその家族に対する看護の役割について学ぶ

専門分野 母性看護学 マトリクス

科目	母性看護学概論	母性看護の方法Ⅰ	母性看護の方法Ⅱ		母性看護の方法Ⅲ		合計
単元	母性看護の基盤となる概念の理解	ウィメンズヘルスを支える看護の理解	産み育てを支える看護の理解		産み育てに障害のある人の看護の理解		
年次	2	2	2		2		
単位	1	1	1		1		4
時間	15	30	6	24	6	24	105
時期	前期	前期	後期	後期	後期	後期	
担当	看護教師	助産師・看護教師	医師	助産師・看護教師	医師	助産師・看護教師	
学習内容	1. 母性の概念 2. 母性の対象理解 1) 多様な性 3. 父性と家族の役割 4. 母性看護の目標と役割 1) リプロダクティブヘルス/ライツ 5. 生殖医療における生命倫理と看護倫理 6. 母性をめぐる社会問題 7. 母子保健の変遷、動向、法律	1. 女性のライフサイクルとウィメンズヘルス 2. 思春期女性の健康と看護 3. 成熟期女性の健康と看護 4. 更年期女性の健康と看護 5. 老年期女性の健康と看護 6. リプロダクティブヘルスケア 7. 遺伝相談 8. 地域における健康教育 9. 演習（助産科と協働） 1) 女性の一生を支える看護のシミュレーション	1. 妊娠の成立と胎児の性分化 2. 妊娠の生理と身体の変化 3. 妊娠の経過と胎児の発育 4. 妊婦健康診査 5. 分娩の生理と経過 6. 産褥の生理と身体の変化 7. 産後の健康診査	1. 妊娠期における看護 1) アセスメント 2) 妊婦や家族に対する看護の実際 2. 分娩期における看護 1) 分娩の3要素と経過 2) アセスメント 3) 産婦や家族に対する看護の実際 3. 産褥期における看護 1) アセスメント 2) 褥婦や家族に対する看護の実際 4. 新生児期における看護 1) 出生直後の新生児の生理と子宮外適応現象 2) 新生児の日常のケア 5. 演習 1) 妊婦、産婦、褥婦に必要な看護技術	1. 妊娠の異常 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠疾患 4) 多胎妊娠 2. 分娩の異常 1) 産道、娩出力、胎児及び付属物の異常 2) 胎児機能不全 3) 産科処置と産科手術 3. 産褥の異常 1) 子宮復古不全 2) 精神障害 3) 感染症 4) 乳房トラブル	1. 妊娠期の異常と看護 2. ハイリスク妊婦の看護 3. 分娩期の異常と看護 4. 帝王切開術の看護 5. 産褥期の異常の看護 6. 乳房トラブルの看護 7. 産後の精神障害の看護 8. 死産により児を亡くした褥婦と家族の看護 9. 不妊治療と看護 10. 新生児の異常と看護 1) 低出生体重児 2) 高ビリルビン血症 5. 演習 1) 新生児の清潔	
演習内容および理論	<理論>愛着理論	シミュレーション	<理論>母親役割獲得 母親になること 母子相互作用 リード理論 レオポルドの触診、腹囲・子宮底計測、乳房管理、産褥体操 技術項目 4：食事指導28：沐浴 69：安楽な体位70：安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア		<理論>危機理論 技術項目 28：沐浴		

実習科目マトリクス

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
母性看護学実習	3	90	3	前期・後期	女性の健康促進へ向けた看護の役割を学ぶ

専門分野 看護の統合と実践マトリクス

科目	医療安全	国際情報論	災害看護	看護技術の統合
単元	医療安全の基礎・考え方	多文化理解と医療	人道支援としての看護	複合技術の看護過程と演習
年次	2	3	3	3
単位	1	1	1	1
時間	15	30	15	30
時期	前期	前期	後期	後期
担当	看護教員・認定看護師	看護教員	看護教師・認定看護師	看護教師・外部講師
学習 内容	1. 医療安全と看護の責務 2. 医療安全対策と医療の質の評価 3. 事故発生のメカニズムと防止対策 ・ヒューマンエラー・ Medikation エラー ・療養上の世話における事故防止 ・インシデントレポート 4. 医療機関における安全対策 5. 看護における安全対策 6. 医療事故後の対応 7. 感染の危険を伴う病原体への暴露と防止 8. KYT（危険予知トレーニング）の実施	1. 国際看護学、国際情報論とは 2. 世界の健康課題、紛争 3. 諸外国の保健医療福祉の動向と問題 4. 文化人類学の概要 5. 世界の健康課題、紛争 6. 諸外国と日本の感染症に関する課題 7. 諸外国と日本の医療福祉制度 8. 国際紛争とその地域に暮らす人々 9. SDGs について 10. 在日外国人の保健医療制度への課題 11. やさしい日本語	1. 災害看護概論 2. 災害看護の定義と役割 3. 災害のサイクルに応じた看護活動 4. 災害時の看護活動の実際 5. CSCATT、トリアージ実演 6. 地域防災を考える 7. ハザードマップをもとにグループワーク、発表	1. 複数患者事例の状況に合わせた対象理解 2. 複数患者事例の状況に合わせた援助計画立案 3. 複数患者事例の状況に合わせた1日の行動計画立案 4. 複数患者事例の状況に合わせた計画の修正 5. 臨床推論を活用し、患者と状況に合わせた援助計画立案 6. 模擬患者への援助の実際と振り返り
演習 内容 および 理論	ハインリッヒの法則 P-mSHEEL モデル ヒューマンファクターアプローチ Medikation エラー PDCA サイクル レジリエンス・エンジニアリング リスクマネジメント 4 M4E 分析・PCA 分析・SHELL 分析 KYT	global health(グローバルヘルス) ヘルスプロモーション(HP) 多文化共生 サンライズイネーブラーモデル	スフィアスタンダード 避難所運営ゲームHUG （災害時要配慮者Ver.） 三角巾	臨床推論・臨床判断 複数患者の看護過程 複合技術の看護過程と演習（輸液ポンプ・点滴管理・創傷処置・インシデント報告など）

実習科目

科目名	単位	時間	学年	時期	内容
統合実習	3	90	3	後期	複数対象の状況に合った看護を計画・修正・実践する。夜間実習や多様な看護の場で実習を行う